

We are what we eat 校長 金山 達也

直訳すると「わたしたちは食べることで生きている」、アメリカでは「人間とは食べるものなり」と訳すそうです。(インターネットより)

このフレーズは、本校の2年生本山維芯さんが今年の9月22日から26日までイタリアのトリノ市で開かれていた「第14回テッラマードレ(母なる大地)国際会議」に参加した際、スピーチで話したものです。ちなみにこの国際会議はイタリアに拠点があるスローフード協会が主催し、2004年の第1回大会から今回の大会まで世界中の農業などの1次産業に関わる生産者やシェフ、研究者、学生などが隔年で集まる会議です。会議のテーマは「食に関するものが中心で、貧困や地球環境などの社会問題に関する意見交換がなされています。本山さんがこの会議で世界に向けて発信した「生きることは食べること」それを表現したのが表題の「We are what we eat」です。

今年の1月。私は美瑛町少年の主張大会の会場にいました。美瑛中の発表者のみなさんの主張に大変感心していました。そのなかで、当時1年生だった本山さんの発表を実際に聞いて驚きました。堂々とした発表態度はもちろんでしたが、「給食を残さない」という素朴な思いから、農業に対する熱い思い、そして、フードロスや貧困の問題にまで発展させたその論旨に感動さえ覚えました。その思いが今回の国際会議の参加につながるとは本人も予想していなかったのではないかと思います。

「最後の一粒まで残さず食べなさい。そうではありません。最初の一粒もない子もいます」というCMをみた人も多いかと思えます。「残さず食べる」文化は日本の良き伝統であり、学校教育における給食指導においても柱の一つとなっています。しかし、最初の一粒さえ与えられないという現実もある・・・はっと気づかされた瞬間でした。人が生きるために、必要不可欠な「食」の問題は多種多様になってきています。しかし、そうした問題にしっかりと向き合い、その解決に向けて日夜努力している人も数多くいます。私たちにできることは何かを考え、それを実行すること。小さくとも確実な一歩をみんなで踏み出すことがやがて大きな力となる。今回、美瑛町(美瑛中)から世界に向けて発信した「生きることは食べること」のメッセージが多くの人につながっていくことを想像すると、大きな可能性を感じずにはられません。前号で紹介した本校吹奏楽部の話題もそうですが、私たちにとって、1年のしめくりとして本当によいニュースとなりました。

令和4年が終わります。この1年、生徒・教職員・保護者・地域の皆様のおかげで、本校の教育活動が感染症対策による制限がある中でも、ほぼ予定通り実施できたことに深く感謝します。皆様、よいお年を。

美瑛中トピックス

【福祉作文表彰式】

社会福祉協議会の会長様をお迎えし、福祉作文の表彰式を行いました。

「ユニバーサルデザイン」など、福祉について自分の考えをしっかりと述べており、立派な内容でした。受賞された皆さん、おめでとうございます！



【3年生：面接・マナー講座】

3年生は、高校入試に向けて面接や、マナーについての学習を行いました。初めて学ぶ入退室の方法や面接での受け答え等に、生徒たちは真剣な眼差しで講座を聞いていました。これからは、願書記入や面接練習など、受験に向けての準備が本格的になります。自分の夢を達成できるよう、頑張ってください！



【2年生：キャリア教育講話】

2年生のキャリア教育講話では、美瑛在住の世界的な物理学者、佐治晴夫様を講師に迎え、「生命・宇宙」に関する講演をいただきました。生徒からは「人との出会いを大切にしたい」「未来のことをしっかりと考えていきたい」などの感想があり、生徒たちにとっても充実した時間になりました。



【1年生：理科の実験】

1年生の理科では、光の反射の実験を行いました。教室を暗くし、懐中電灯や鏡を使い、光の通り道について学びました。グループごとに協力しながら、意欲的に取り組んでいました。



【3年生：租税教室】

3年生の社会科では、税務署の方を講師に迎え、租税教室を行いました。税金の仕組みや、納税についてスライドや映像で学びました。将来、大いに役に立つ授業になりました。

